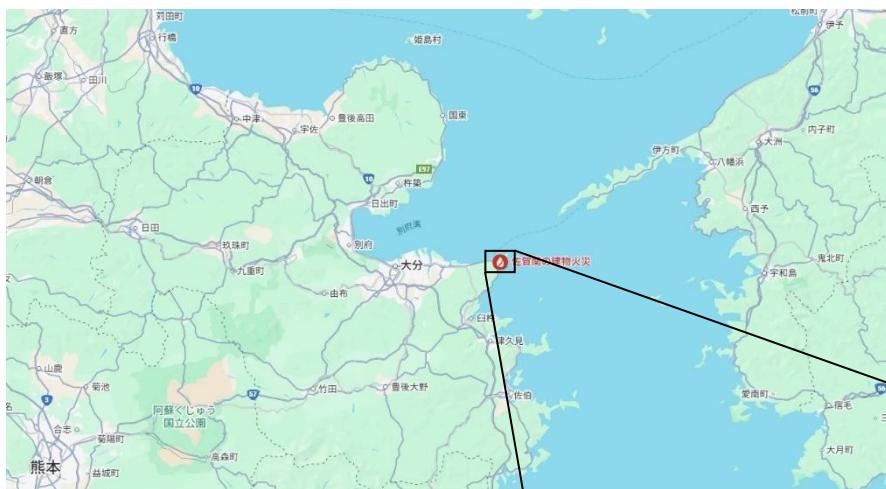


## おおいたけん おおかじ はなし 大分県での大火事のお話

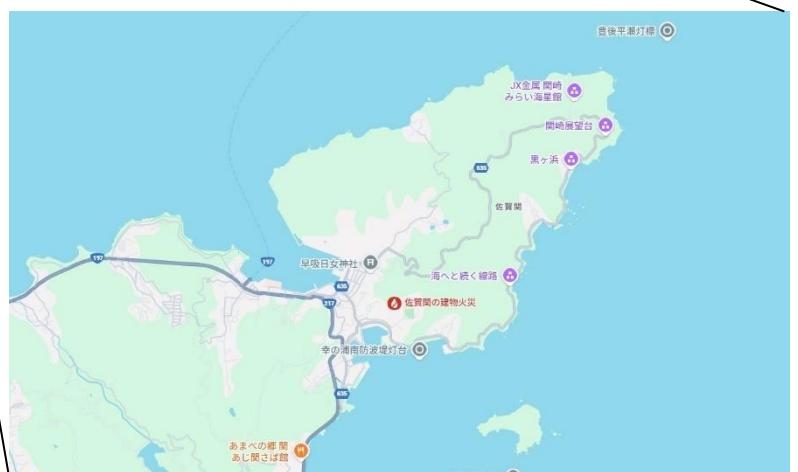
11/17 は日差しも暖かく、日なたを歩いていると汗ばむほどの気温で、まさに「小春日和」という日でしたね。11/18 は一転して肌寒く、このくりかえしで本格的な冬がだんだんと近づいてきているのだな、と感じます。

さて、今回は災害関連のニュースということで、大分県大分市佐賀関で発生した大規模火災について書いていきます。



今回の火災が発生した場所

(右下は拡大図)



11/18 の夕方に発生した火災は 24 時間以上燃え続け、170 棟以上の建物が焼

け、1名が亡くなるまでに大きくなりました。火の粉は風にあおられて約1.4km 離れた無人島の鳴島（1ページ目拡大図の右下の島）にまで火災を広げたということです。

ニュースサイトなどでもいくつかの分析が出ていますが、今回の火災が大きくなったのは、いくつかの原因が重なったことによるようです。

人間の側の問題としては

①古い港町で、燃えやすい木造の住宅が密集していた。

②それにともなって道が狭く入り組んでいるため、消防車が入りにくく、消防活動がしにくかった。

③防災ヘリコプターによる消火が、夜に入って行いづらくなった。

などが挙げられています。



また、自然による要因としては

①半島の付け根部分にあるせまい平地で、風が吹き抜けやすい地形であること。

②冬型の気圧配置が強まり、北西の強い風が吹いていたこと。（強風注意報が出ていた。）

などが挙がっています。

火を消し止める速さよりも、風によって燃え広がる速さのほうが速かったた

めに、広い範囲が火災にみまわれた、ということでしょう。火の粉が 1.4km も

と飛ばされるような風の中では火の勢いも強まります。消防士の方々も命がけ

の消火活動だったのではないでしょうか。

今回の災害は純粋な自然災害ではありませんが、かといって人災と言い切る

こともできません。仮にいつも気をつけていたとしても、人間はミスをしますし、

防げない災害もあるということです。木造住宅が密集する地域は東京にもあ

ります。日本ならではの住宅事情や気候の特徴もふまえて、火災に備えてお

く必要があるということですね。

また、日本に住んでいるからには、いつ起きるか

わからない地震や、火山の噴火にも備えておかなければいけません。いつも考えすぎて不安ばかり

大きくなる、というのも困りものですが、やはり災害大国に住んでいるということを自覚し、防災意識を高く持っておくことは、我々にとって必要

なことと言えるでしょう。

